

臨時休業を経た高校生が語る、 私の学びの「これまで」と「これから」

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、多くの高校が長期間の臨時休業を余儀なくされた中、生徒は苦しみ、もがきながらも、「今」と「自分自身」に向き合い、行動を起こしていった。生徒の臨時休業中の気づきと学びから、教育の「これから」を考える。



かんの・ふうか (左) 神奈川県・私立自修館中等教育学校6年生。将来はリハビリテーションに携わる医療職に就きたいと考えている。

かわくぼ・みのり (右) 神奈川県・私立自修館中等教育学校5年生。環境問題に興味を持ち、探究学習を通じて校内外の活動にも積極的に参加中。

他者とのつながりの中で、

自分のあり方や秘めた力に気づいた

神奈川県・私立自修館中等教育学校 **菅野風歌さん** / **川久保実莉さん**

苦しみを乗り越えた時、 人生のあり方が見えてきた

菅野 約3か月の臨時休業中は、学校からオンラインで配信された課題などに取り組んでいました。1人でダラダラとSNSを見ないよう、オ

ンライン授業が終わったらデバイスを自室から遠ざけるなど、受験生としての自覚がありました。でも、集中して勉強することがだんだんと難しくなり、計画通りに進まない日が続くようになりました。すると、自分に対するネガティブな気持ちがか

の中を占めていきました。

ある日、オンライン上で先生や友人と話をしていた時、ふと私は、「全然勉強が進まない。計画通りに勉強できている友人の話を聞くとイライラし、そんな自分に自己嫌悪してしまふ」と、自分の気持ちを吐き出していました。話しているうちに、涙があふれ、止まらなくなりました。自分がこんなに苦しんでいたことに、私は人に話すことで、ようやく気づくことができました。

その日から、私は先生と約束をして、頻繁にオンライン上で面談をしてもらうようになりました。先生にアドバイスをもらうためというよりも、自分のことを自分で理解するためです。臨時休業が終わってから、学校で、しよっちゅう先生に話を聞いてもらっています。

今回の想定外の事態を経験して、私の中で変わったことの1つは、先

生との関係です。今までは、先生に答えを求めて質問していましたが、今は、自分のものの見方や考え方、あり方を理解するために質問しています。自分のことが分かって初めて自分で動けるのだと思います。

自分のあり方や考え方を自分で理解できるようになってからは、将来のことをそれまで以上に深く考えられるようになりました。私はリハビリテーションに携わる医療職を目指しているのですが、「もしもこのコロナ禍で、自分がその仕事に就いていたら、何ができたろうか」と考えました。そして、実際にその医療職に就いている方に、オンライン上でお話を伺いました。自分の中に生まれた疑問を解消しようという行動がで

神奈川県・私立自修館中等教育学校

- ◎ 明知・徳義・壮健を建学の精神に、自主・自律の精神に富み、自学・自修・実践できる「生きる力」を育み、人間性豊かでグローバルな人材の育成を目指す。自らテーマを決めて論文にまとめる4年間の探究学習にも力を入れる。
- ◎ 設立 1999（平成11）年
- ◎ 形態 全日制／普通科／共学
- ◎ 生徒数 1学年約120人
- ◎ 2020年度入試合格実績（現浪計）
国公立大は、東京都立大、横浜市立大などに3人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大などに延べ197人が合格。海外大学に2人が合格。
- ◎ URL <https://www.jishukan.ed.jp/>

きたのは、4年間取り組んできた探究学習の中で、自らテーマを決めてそれを解決するための策を考え続けたからだと思っています。

「人は、他者と話すことで自分を理解することができる」ということに気づけたのは、私にとって大きなことでした。目指す職業に就いた時、患者さんやその家族に対して、医療技術的な支援だけでなく、その人たちの話を真摯に聞くことでできる貢献もあるのだと分かったからです。

**想定外の事態の中で
自分の強みを知った**

川久保 こんなに長期間、1人で家で勉強するのは初めてだったので、最初のうちは学校の課題を漫然とこなすだけでした。でも、友人とオンライン上で話す中で、同じ場所にはいなくても、この瞬間もともに頑張っている仲間がいることに気がつき、私も頑張ろうと思えるようになりました。それからは、計画通りに勉強ができるようになり、集中力も上がっていくと、心の中に余裕が生まれたのか、趣味の料理、そして中学校からずっと取り組んできた探究

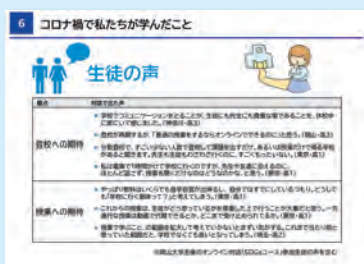
学習にも時間をかけられるようになりました。私の探究学習のテーマは、ファストファッションにおける大量廃棄の問題です。せっかく自由な時間があるのだから、探究テーマをもっと深めようと、アパレル業界でこの問題に関心を持っている人にオンラインインタビューを申し込み、お話を伺いました。

普段の生活の中では会う機会がな

い人と話をするのができて、探究テーマへの理解が深まりましたが、私にとって想定外の成果は、進路のことをその方と話せたことです。インタビューの中で、自分は将来何をしたいのかまだよく分かっていないと正直に話すと、「どんな人を喜ばせたいのかを考えてみてください」と、アドバイスをくださったんです。仕事は自分のしたいことをするもの

**臨時休業中の「気づきと学び」を最大化させるための
全国の中学校・高校の教師、生徒の対話の場に
菅野さんが参加しました**

コロナ禍における「生徒の気づきと学び」を最大化するため、全国56の中学校・高校の教師によるネットワーク「コロナ禍における『生徒の気づきと学びを最大化する』プロジェクト」が2020年4月に活動を開始。毎週1回、テーマ別のグループ対話と各校の取り組みの紹介をオンライン上でを行い、対話の内容を「プロジェクトアーカイブページ」で公開してきた。菅野さんは5月のオンライン対話に参加し、「他者との対話を通じた自己修復、自己発見」という臨時休業中の経験について語った。



「コロナ禍における『生徒の気づきと学びを最大化する』プロジェクト」活動報告より。
https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/20200714_release.pdf

だと思っていましたが、どんな人を喜ばせたいのかという視点で仕事について考えたことは今までなかった。新しい視点を得たような気持ちになりました。そして、自分の知らない考え方がまだまだあることに気がついたことで、「私はもつと悩んでいいんだ」と思えるようになり、気持ちが悪くなりました。

インタビューの最後に、その方か

「あなたと話せてよかった」と言ってもらえたのもうれしかったです。探究学習で取材をした経験を通じて、積極的に自分の考えを述べたり、話がより深まるような質問をしたりする力が身につけていたのかもしれない。相手が今どんな気持ちでいるのかを理解し、相手をよりよい状態にするための最適な言動を選択する、ファシリテーターが持つような

力は、インタビューに限らずいろいろな場面で必要とされる力だと思うので、これからの高校生活でもっと高めていきたいです。

想定外の事態の中、確かに苦しいこともありました。想定外の事態だからこそできたこと、分かったこともありました。今回の事態が収束しても、自分から積極的に動いていくことの大切さは忘れません。

予測困難な未来を生きるからこそ、語り合いながら「今」を大切に生きる

福岡県立育徳館中学校・高校 中村唯乃^{ゆい}さん

今の自分をつくるのは 自分の考えと行動

3月に臨時休業が始まってから、ずっと自宅にこもって勉強をしていました。でも、家族以外の人との交流が少なくなり、何となく毎日がつまらなくなっていくにつれ、勉強へのモチベーションも少しずつ下がっていききました。さらに、部活動の最

後の大会が中止になり、大切な目標がなくなったことで精神的に落ち込み、あらゆることに身が入らない時期もありました。

ただ、そんな中でも、「このままではいけない」という思いはずっとありました。私は、高校生活における様々な経験を通して、「今の自分をつくっているのは自分自身」という考えを持つようになりました。

日々の学習の理想の状態や学校行事の目標は、先生にサポートしてもらいながらイメージしていきますが、そこに向かうプロセスは、自由に考え、自分に合った行動を選択していくようにしてきました。高校生になって、自由な選択と挑戦の楽しさを味わいながら自分をつくっていくという実感を得てきた私は、臨時休業という想定外の事態の中で、自分

が今取るべき行動を改めて考えました。

私は、自宅にいななければいけない状況だからこそ、「なぜ社会は、このような事態になったのか」「高校生として私にできることはあるのか」といったことを考え、社会のことに目を向けようと考えるようになりました。受験生である前に、今を生きる1人の人間として、社会とつながろうと思ったのです。そうして、オンライン会議ツールを活用した地域の社会人との対話の場に参加するなど、少しずつ新しい行動を起こしていききました。さらに、自分以外の人にも社会的なつながりを楽しんでほしいと考え、高校の友人にも声をかけて、オンライン上で社会人や大学生との対話の場をつくるということにも挑戦しました。

今の思いを語り合いながら 大切な「今」を積み重ねたい

臨時休業を振り返った時、私にとっての大きな気づきは、「大切なのは『今』』ということでした。3か月にも及ぶ臨時休業中に私が経験した様々なことは、まさに想定外の

ことばかりで、自分がこれまで「毎日」は予想通りに過ぎていくことを前提に日々を過ごしていたのだと思いが、未来は何が起きるか分からない。それでも、「今」は「将来」につながる……以前よりも「今」を大切に感じるようになりました。

受験生の私は、重要な「今」を積み重ねる日々が続いています。臨時休業でこれまでのような授業ができない時間が長く続いて、正直不安もあります。先生方は「大丈夫だよ」と繰り返しおっしゃいます。新型コロナ



なかむら・ゆの 福岡県立育徳館中学校・高校3年生。高校3年生までバドミントン部に所属。大学ではバイオテクノロジーを学び、将来は、安全で収穫量が多い農作物の開発などに従事したいと考えている。

ロナウイルスの感染が拡大する中、先生方も私たち同様きつと不安なはずなのに、それでも「大丈夫だよ」と私たちに声をかけながら授業をしてくださる……そんな先生を始めとする大人の気持ちも考えられるようになったのも、臨時休業を通じた私の変化の1つです。

ただ、先生方にそうした言葉をかけてもらっても、私たち生徒は不安にさいなまれ、ネガティブな思考に陥りがちです。私も、部活動の大会が中止になった時に目の前が真っ暗になってしまい、「大会がなくなっ

ても、部活動での経験が無駄になるわけではない」といった言葉は耳に入りませんでした。それでも、顧問の先生や部員と話す中で、少しずつ気持ちは整理されていきました。

今はまだ、私たち生徒にも余裕がなく、勉強に関係のないことは話づらい雰囲気もありますが、少しずつでもお互いの気持ちを打ち明けながら、大切な「今」を、みんなで積み重ねていければと思います。

最新の教育現場の状況や取り組み、今求められている情報、現場の教師や識者のオピニオンなどを伝える『VIEW21 express』で中村さんが語ってくれた

変化が激しく、将来の予測が困難な社会において必要な教育と、そしてそれを実現するための手立てを考えるため、最新の教育現場の状況や取り組み、現場の教師や識者などのオピニオンを紹介する『VIEW21 express』で、中村さんは「臨時休業下で考えた、これからの教師との関係」について語ってくれた。



『VIEW21 express』
シリーズ・みんなで語り合い、考える「これからの学校」より。
<https://berd.benesse.jp/magazine/express/>

福岡県立育徳館中学校・高校

- ◎宝暦8年、小笠原藩の藩校・思永斎を源流に、全国屈指の伝統を誇る。2004年度から福岡県下で初めての中高一貫教育校となり、「育徳」の校訓と「文武両道」「質実剛健」の校風の下、次世代人材を育成する教育活動を展開。
- ◎設立 1758（宝暦8）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約200人
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）
国立公立大は、東京外国語大、広島大、九州大、熊本大などに32人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大などに延べ149人が合格。海外大学に1人が合格。
- ◎URL <http://kutoku-h.kyuad.jp/>